

2021年5月12日  
シスメックス株式会社

---

## シスメックスグループ中期経営計画を策定 ～持続的な成長に向け、グループの総合力を発揮し、企業変革を推進～

---

シスメックス株式会社（本社：神戸市、代表取締役会長兼社長 CEO：家次 恒）は、グループの力強い成長の持続とそれを支える経営基盤の強化に向け、2024年3月期を最終年度とするグループ中期経営計画を策定しました。

本グループ中期経営計画では、長期ビジョンに基づくポジショニング目標の達成を目指し、今後3年間で取り組むべき重要な事項を設定し、具体的施策の実行を推進します。

世界のヘルスケア市場は、先進国における高齢化に伴う医療の効率化、新興国の経済成長に伴う医療需要の拡大と医療の質・サービス向上へのニーズの高まりに加えて、人口知能（AI）や情報通信技術（ICT）などの最先端技術のヘルスケア領域への応用が急速に進展しており、今後も継続した成長が期待されています。また、グローバルでの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックを起点とした医療体制の在り方や、医療環境自体が大きく変化する可能性もあり、さらなる成長機会も見込まれています。

シスメックスは、特徴のある先進的なヘルスケアテストング企業を目指して、グローバルに販売・サービスネットワークを構築するとともに、検体検査領域を中心とした製品ラインアップの充実に加え、IoTを活用した先進的なサービス&サポートの提供など、独自のソリューションと事業領域の拡大により継続的な成長を実現してきました。

本グループ中期経営計画では、2025年に向けた長期ビジョン（2018年制定）に基づくポジショニング目標の達成に向けて、グループ最大の収益源であるヘマトロジー分野に加え、血液凝固分野・免疫分野、ライフサイエンス分野を重点分野と定め、優先的な資源配分により研究開発活動を強化し、新たな価値の創出と製品ラインアップの拡充を実現します。さらに、手術支援ロボットを核とした新たな事業の創出と育成にも引き続き取り組み、非連続な成長の実現を目指します。そのため、2021年4月よりビジネスユニットによる事業推進体制から機能別体制へ再編を行い、グループの施策実行力の向上を図ります。

また、新たな価値創造および企業体質強化に向けたビジネスプロセス改革をグローバルに推進するため、前中期経営計画に引き続き、次世代基幹システムやデジタル基盤刷新への取り組みを継続します。グループ全体の生産性を向上するとともに、お客様に対する新たなソリューションの創出に向けたデジタルトランスフォーメーション（DX）の実現を目指します。

シスメックスは持続可能な社会の実現を重要な経営課題と捉え、製品・サービスの提供を通じた医療課題解決に取り組むとともに、環境への配慮や魅力ある職場の実現など、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）をグループ全体で推進し、多様なステークホルダーの皆様へ安心をお届けするとともに、サステナビリティ経営の実現を目指します。

株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

シスメックスは、グループ企業理念「**Systemx Way**」のミッションとして掲げる「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、長期ビジョンとポジショニングの達成に向けて、本グループ中期経営計画を着実に実行し、これからもヘルスケアの進化・発展へ貢献し続けます。

## 1. 長期経営目標（2018年5月9日発表）

### (1) 2025年に向けた長期ビジョン

#### Unique & Advanced Healthcare Testing Company

『特徴のある先進的なヘルスケアテストング企業』

### (2) ポジショニング

#### ① 新たな診断価値を創出する IVD<sup>\*1</sup> グローバル Top 5

グローバルに成長し続ける検体検査市場のシェア拡大に加え、新たな診断価値の創出を通じて、コア事業（ヘマトロジー分野、尿検査分野、血液凝固検査分野、免疫検査分野）の持続的な成長を実現することで IVD グローバル Top 5 を目指します。

#### ② 治療を最適化する個別化診断のリーディングカンパニー

遺伝子、細胞およびタンパクの自社測定プラットフォームと、オープンイノベーションなどにより獲得した新たな技術、知見を融合することで、治療方法の選択に際して重要な鍵となる新たな検査・診断価値を創出し、個別化医療の実現をグローバルにリードします。

#### ③ プライマリケアの進展に貢献するソリューションプロバイダー

これまで検体検査領域で培った診断技術と IT を活用することで、より患者さんに身近な場所で行われる初期診療において医師、看護師、検査技師など、医療従事者に必要とされるソリューションを提供し、医療アクセスの向上を目指します。

#### ④ 価値と安心を提供する魅力あふれる会社

独創的な技術やビジネスモデル、活力ある人材、健全かつ先進的な企業経営により、社会に価値を提供し続ける企業として、多様なステークホルダーからの支持獲得を目指します。

#### ⑤ スピード豊かな経営を実践する One Systemx

多様な人材が活躍できる魅力ある職場の実現により、グループ全体として最高のチームワークを発揮し、高効率かつスピード豊かな経営を実践します。

## 2. グループ中期経営計画

### (1) 中期目標数値（連結）

	2022年3月期目標	2024年3月期目標	CAGR <sup>※</sup>
売上高	3,500億円	4,200億円	11.2%
営業利益	600億円	800億円	15.6%
営業利益率	17.1%	19.0%	-
ROE	12.5%	15.0%	-
営業キャッシュフロー	590億円	900億円	-
フリーキャッシュフロー	200億円	400億円	-

### (2) 事業別売上目標

	2022年3月期目標	2024年3月期目標	CAGR <sup>※</sup>
ヘマトロジー	1,970 億円	2,200 億円	6.9%
FCM検査	30 億円	70 億円	68.9%
尿検査	300 億円	360 億円	18.1%
血液凝固検査	580 億円	670 億円	7.2%
免疫検査	200 億円	300 億円	24.7%
生化学検査	30 億円	35 億円	7.7%
ライフサイエンス	180 億円	300 億円	32.1%
その他	160 億円	165 億円	-
ダイアグノスティクス事業	3,450 億円	4,100 億円	10.4%
メディカルロボット事業	50 億円	100 億円	134.5%
合計	3,500 億円	4,200 億円	11.2%

### (3) 地域別売上目標

	2022年3月期目標	2024年3月期目標	CAGR <sup>※</sup>
日本	595 億円	765 億円	16.2%
米州	795 億円	955 億円	13.2%
EMEA	880 億円	1,000 億円	6.8%
中国	940 億円	1,120 億円	10.1%
アジア・パシフィック	290 億円	360 億円	13.8%

（参考）中期経営計画期間における想定為替レート

アメリカドル（USD）	ユーロ（EUR）	中国元（CNY）
106 円	125 円	16.0 円

※2021年3月期から2024年3月期の年平均成長率

### 3. ポジショニング目標達成に向けた取り組み

#### (1) 成長性・収益性の向上を目指した新製品の投入加速、新興国戦略の推進

ヘマトロジー分野では、「多項目自動血球分析装置 XR シリーズ」「多項目自動血球計数装置 XQ シリーズ」の導入に加え、AI を活用した画像解析、システム連携やデータ統合により、早期の診断確定と適正な治療方針決定へのサポートなど、新たな付加価値の提供を目指します。加えて、マーケットニーズに合わせた製品の市場導入、販売体制の強化により、グローバルにおける高成長の実現を目指します。

また、各事業分野および分野横断的な新たなクリニカルバリューを継続的に創出するため、戦略的に KOL (Key Opinion Leader) ネットワークを構築し、連携強化を図ります。さらに、新製品投入加速に向け、商品開発に関わるバリューチェーン全体を変革するほか、売上原価率の低減、サービス収益の向上および事業活動全般のプロセスを効率化し、収益性向上を目指します。

#### (2) 重点分野（血液凝固・免疫・ライフサイエンス）への積極的な投資による高成長の実現

今後、大きな成長が期待される血液凝固分野、免疫分野、ライフサイエンス分野を重点分野に定め、経営資源を優先配分し、製品ラインアップの拡充と販売・サービス体制の強化により高成長と大幅な収益性の改善を目指します。また、必要に応じて戦略的なアライアンスや M&A を効果的に活用し、強固な事業構造への変革を推進します。

さらに、COVID-19 関連の商品開発を社会的課題として捉え、全社横断的に研究開発を継続し、新たな価値の提供を目指します。

#### (3) 非連続な成長実現のための新たな事業の育成

「手術支援ロボット手術ユニット hinotori™ サージカルロボットシステム」による外科領域のビジネスを日本で着実に拡大し、さらに海外への事業展開も推進します。また、検査データや臨床情報を活用したデータビジネス領域を中心に研究開発を推進し、早期事業化、コア技術獲得を目的としたオープンイノベーションの実践による新たな事業の創出に取り組めます。

#### (4) グループのデジタル化推進と顧客価値創出に向けた DX の実現

新たな価値創造および企業体質強化に向けたビジネスプロセス改革をグローバルに推進するため、継続的に次世代基幹システムやデジタル基盤の刷新に取り組めます。

また、既に提供を開始している Caresphere™ のアプリケーションを充実させ、カスタマーサポートの変革およびお客様に対する新たなソリューションの創出に向けた DX の実現を目指します。

#### (5) 戦略実行に資する人材ポートフォリオの充実と多様な人材を活かす魅力ある組織風土への転換

持続的な成長を支える次世代リーダーと高度専門人材の獲得および育成を強化するため、グローバル共通のジョブ型人材マネジメントシステムの定着を推進します。また、健康経営施策の実行による従業員の心身の健康をサポートし、すべての従業員が安心して能力を発揮できる職場環境の実現を目指します。

#### (6) サステナビリティ経営の強化・実践に向けたビジョン策定、施策展開

医療課題の解決、品質の向上、環境配慮への対応強化、ガバナンスの強化など、当社の持続的成長に向けた優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）およびサステナビリティ目標に基づき、グループ全体で施策展開することで、多様なステークホルダーからの信頼を獲得するとともに、企業価値の向上を図ります。

【注釈】

※1 IVD (*in vitro* diagnostics) :

一般的には、血液や尿などの検体を用いて身体状態を診断する体外診断を示す。  
ここでは、体外診断を行うために実施される検体検査の領域を示す。

以上

---

プレスリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。本資料のうち、業績予想などに記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績などが予想数値と大きく異なる可能性があります。